

101 神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世と聖杯騎士伝説  
—エルサレム戴冠とカステル・デル・モンテ建造をめぐる  
人文地理学的研究—

Holy Roman Emperor Friedrich II and Legend of Holy Grail's Knight  
—Human Geographic Research about his Coronation in Jerusalem and  
the build of Castle Del Monte—

川西孝男（ドイツ・オーバーフランケン歴史協会員，関西学院大学・院生）

KAWANISHI Takao (Historischer Verein für Oberfranken e. V. in Deutschland,  
Doctoral Course of Kwansei-Gakuin University)

キーワード：神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世，聖杯騎士伝説，エルサレム戴冠，カステル・デル・モンテ，アン  
デクス・メラン家，聖エリーザベト，ドイツ騎士団，十字軍騎士団，12世紀ルネサンス

Keywords: Holy Roman Emperor Friedrich II, Legend of Holy Grail's Knight, Coronation in Jerusalem, Castle Del  
Monte, Haus Andechs Meran, Heilige Elisabeth, Deutscher Orden, Crusader Knights, Renaissance of 12<sup>th</sup> Century

“世界の驚異” 皇帝フリードリヒ2世像の再考をめぐる  
人文地理学的アプローチ

13世紀のイタリアを拠点に活動した神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世(1194-1250)は、その類稀なる学術的才能と、法秩序による国際社会の共存を目指した先見性、ローマ教皇そして聖地エルサレムといった聖界への革新的な外交手腕などによって“世界の驚異”(ダンテ、1265-1321)、“玉座にいた最初の近代人”(ブルクハルト、1818-1897)と称賛された。一方で、教皇やカトリック勢力との確執から“反キリスト”“破門皇帝”とみなされるなど、当時のヨーロッパでは理解し難いものも多く、バルバロッサらが築き上げた神聖ローマ帝国最盛期のシュタウフェン朝を完成させる一方、その没落を招来したという指摘もある。事実、フリードリヒ2世の亡き後、帝国は皇帝を擁立できずに大空位期に入り、シュタウフェン朝の断絶によって多くの史料も失われ、皇帝フリードリヒ2世は謎に包まれた感もある。しかしながら、国際色豊かな彼の精神性やその世界観をめぐる学術研究は続けられており、彼への関心そして魅力は今日も尽きないと言える。

20世紀の歴史家カントロヴィチ(Kantorowicz, 1895-1963)は、皇帝フリードリヒ2世を歴史的脈絡から随所に神秘主義的考察を交えた精神性に及ぶ解釈を行い、大きな反響を呼んだ。しかしながら、ヨーロッパの歴史学者、政治思想家としてのカントロヴィチは、皇帝フリードリヒ2世を個人的天才ととらえ、絶対君主あるいは独裁者としての神聖ローマ帝国の世界支配を論じ、皇帝フリードリヒ2世を古代ローマ帝国あるいはカエサル復活として過去の時代に位置付けたこと、また反キリスト者、無神論者として教皇に反旗を翻した革命的人物として解釈したため、皇帝フリードリヒ2世によるキリスト教の聖地そして当

時の十字軍の中心舞台であったエルサレムへの無血入場と聖墳墓教会でのエルサレム王としての戴冠に至る方向性が論じきれていない。さらに、皇帝フリードリヒ2世が後世に遺した象徴学的あるいは幾何学的構造を持つ、彼の建造した最後の城となったカステル・デル・モンテへの研究も十分になされたとは言い難い状況にある。これら研究上に残された多くの課題は12世紀ルネサンス期の皇帝フリードリヒ2世がいかに時代を超えた存在であり、世界が驚異するに値する人間であったことの証左とも言える。本研究も、これら先人の研究成果の上に立つものであるが、人文地理学的アプローチから皇帝フリードリヒ2世について新たな解釈を持って迫りたい。

まず、皇帝フリードリヒ2世の多くの才能は先行研究のような個人に帰するものであったのかという点にある。私は、彼が国際的な対立の続く十字軍時代を終焉させるという理念に基づいて“育て上げられた”と捉えている。そこには当時、この理念の実現化に奔走し、シュタウフェン朝を実質的に支えたアンデクス・メラン家(大公家)の存在があった。彼らは異文化が共存し、地中海の交易で栄える南イタリアでフリードリヒ2世に様々な言語や宗教、文化、歴史、政治哲学そして当時先端の科学技術を吸収・修得させ、共存と繁栄をもたらす新たな理念を持った救世主とすべく、帝国本来の中心であるドイツの地から「ペルスヴァル」そして「パルツィヴァール」といった聖杯騎士伝説の精神を彼に授けた。彼は皇帝として、この聖杯騎士伝説の理念に基づく多文化共存型の国際システムをもつ新たな神聖ローマ帝国を目指す道を進んでいくことになる。

本論は、これまで研究されることのなかった聖杯騎士伝説の視点から皇帝フリードリヒ2世の生涯を考察する。彼のたどった足取りを地理学・地政学的アプローチによって

検証しつつ、彼が聖杯騎士伝説の世界に生き、自らの聖杯騎士団とも言うべくドイツ騎士団と結びつく背景を探る。神聖ローマ帝国の敵対勢力によってアンデクス・メラン家が滅び行く中、当家の血を引く聖女エリーザベト(1207-1231)を深く信奉し、これらの遺志を継いで自ら聖杯王としてエルサレム戴冠を果たそうとする皇帝フリードリヒ2世や、彼が建造した“新たな聖杯城”たるカステル・デル・モンテに込めた理想世界に迫りたい。皇帝フリードリヒ2世そしてアンデクス・メラン、シュタウフェンの目指したこの理念がその後も連綿と継承され、ヨーロッパを超え、やがてアジア・日本に影響を及ぼすことになる世界的な普遍性を持つものであったことに及びたい。

<関連絵図>



図1 Friedrichs II. zu Palermo(1879, Wislicenus, H.)



図2 Haus Andechs-Meranien



図3 The Charity of St. Elizabeth (1895, E. Leighton)



図4 Castel del Monte (筆者撮影)

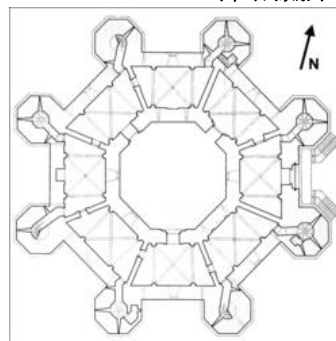


図5 Plan of Castel del Monte

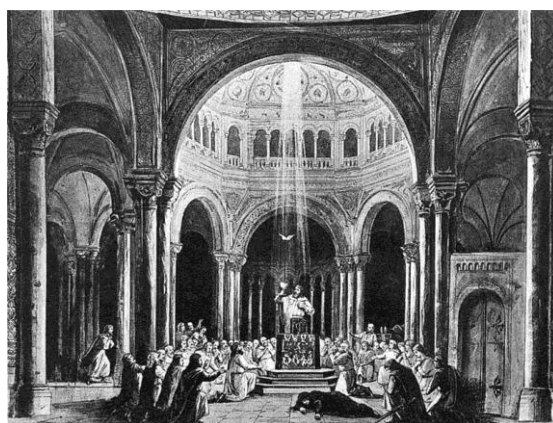


図6 Coronation in Jerusalem as Holy Grail's King

参考文献：Kantorowicz, E., *Kaiser Friedrich der Zweite*, Stuttgart, 2008

Burckhardt, J., *Die Kultur der Renaissance in Italien*, Stuttgart, 2009  
Houben, H., *Kaiser Friedrich II Herrscher, Mensch und Mythos*, Stuttgart, 2008

Uhhli, E., *Die drei grossen Staufer: Friedrich I. Barbarossa - Heinrich VI - Friedrich II.*, Wiesbaden, 2010

Arcovito, F., *Castel del Monte. Un mistero svelato*, Sicilia, 2010

Götze, H., *Geometric Marvel of the Middle Ages*. London. 1998.

Bayerische Staatskanzlei (Hrsg), *Herzöge und Heilige. Das Geschlecht der Andechs-Meranier im europäischen Hochmittelalter*, 1993

Hormayr, J., *Versuch Einer Pragmatischen Geschichte Der Grafen Von Andechs*, 2012

Hennig, L., *Die Andechs-Meranier in Franken. Europäisches Fürstentum im Hochmittelalter*, Zabern, 1998

Müssel, K., *Bayreuth in acht Jahrhunderten: Geschichte der Stadt*, Bindlach, 1993

助言 / 史料提供：Historischer Verein für Oberfranken e. V. : Deutschland, Mediterranean Center of Social and Educational Research (MCSER) in Rome, Church of the Holy Sepulchre, Dome of the Rock in Jerusalem